【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第４区分
【発行日】平成21年6月18日(2009.6.18)

【公開番号】特開2006-304594(P2006-304594A)
【公開日】平成18年11月2日(2006.11.2)
【年通号数】公開・登録公報2006-043
【出願番号】特願2006-119834(P2006-119834)
【国際特許分類】
Ｈ０２Ｋ　1/02　(2006.01)
Ｈ０２Ｋ　1/18　(2006.01)
Ｈ０２Ｋ　1/16　(2006.01)
Ｈ０２Ｋ　1/26　(2006.01)
Ｈ０２Ｋ　21/14　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０２Ｋ　1/02　A
Ｈ０２Ｋ　1/18　D
Ｈ０２Ｋ　1/16　C
Ｈ０２Ｋ　1/26　A
Ｈ０２Ｋ　21/14　M

【手続補正書】
【提出日】平成21年4月23日(2009.4.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項８】
前記溝付き部品は前記電気モータの回転子である請求項１から６までのいずれか一項に記載の溝付き部品。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
図７に示されているように、歯１４の縁部のすべてが丸められることによって、図７に示されているものとは別のタイプの巻線を想定することも可能である。例えば、それがもたらす利点、すなわち、直接的に歯の上に巻線することによって、コイルを作るという前段階と、その後の、リング１０のノッチ１１内にそれを挿入する段階とを必要としないという利点を有する歯巻線（tooth winding）を使用することが可能である。その結果は、歯の中でのコイルのはめ合い（fit）の品質が高くなり、コイルヘッド（coil head）が小さくなることに関して、目覚ましいものであり得る。その結果は、丸められた歯１４と、参照番号１５で示されているコイルとで、図８に概略的に示されている。